

とっておきの一台 (クローズアップ増刊)

今号からの新しい企画となります。クローズアップとは違うアプローチで、今までご紹介できなかった案件や、他にあまり例を見ない仕様の昇降機のご紹介などを取り上げていきたいと思っておりますので、楽しみに。



建物外観

北京料理 東華菜館 本店

牧野 浩 士

(Kouji Makino)

日本オーチス・エレベータ株式会社
京都支店 京都営業所

今も活躍する日本最古のエレベーター

1. はじめに

そこは異国情緒漂う空間。

東華菜館は、1945年に開店した古き良き伝統を守り続ける北京料理店です。レトロな空間、鴨川に面した立地、そして屋上からは京都北山から東山を眺望でき、素晴らしい空間で本格的な北京料理を楽しむ事ができます。

建物は、1926年に竣工しました。ウィリアム・メレル・ヴォーリズ氏による唯一のレストラン建築で、スパニッシュ・バロック様式の洋館となっています。また、館内もヴォーリズ氏により設計された数々の調度品があり、とても貴重な建物と言えます。

大切に維持管理保存に努め、今もなお竣工当時の姿を残し、レトロで重厚な雰囲気を持ち続けています。

2. 昇降機設備

東華菜館に納入されているエレベーターは、現存する日本最古のエレベーターです。

1924年製で、米国で製造、輸入されました。1972年に制御改修(交流1段速度式→交流2段速度式)を行い、その後は小修理工事をしながら、当時の意匠を保っています。

格子形の蛇腹式手動かご扉、ブロンズ製の針式乗場インジケーター、カーハンドルによる手動式運転、かご内の欄間装飾等、非常にレトロで重厚な雰囲気を今に伝え続けています。



竣工当時の写真

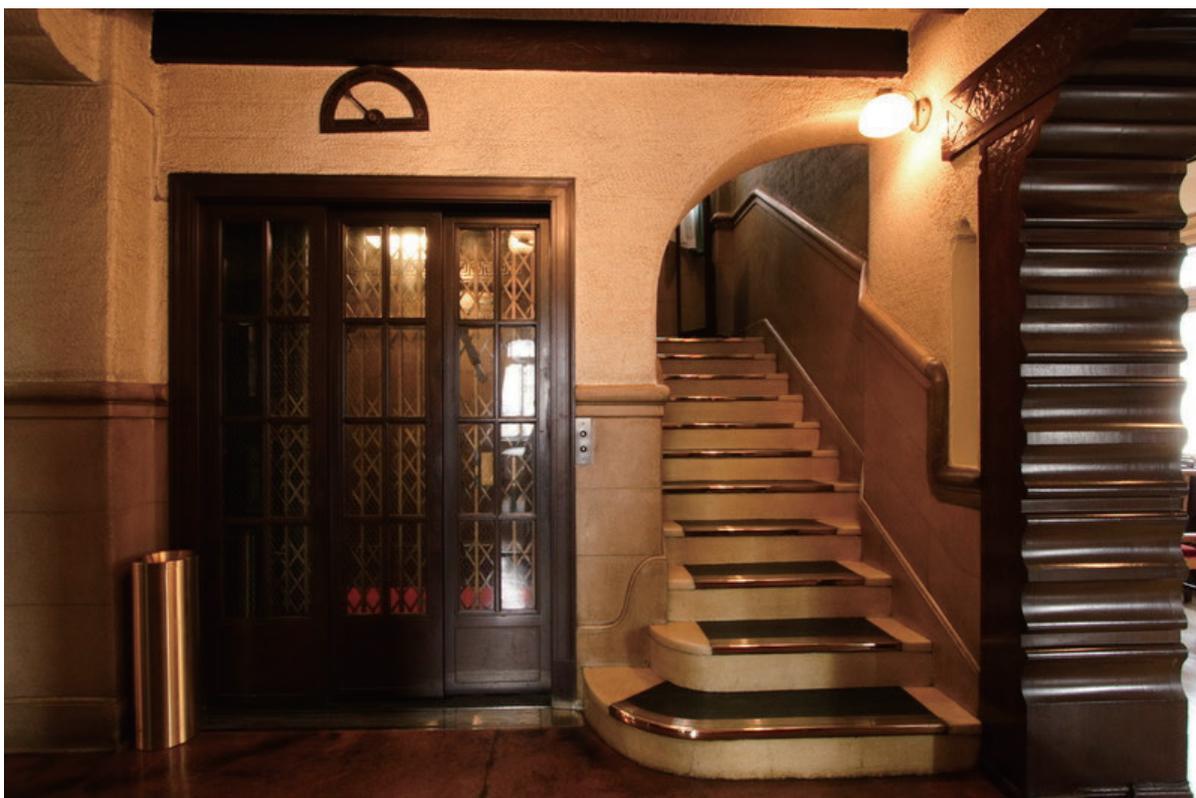
とっておきの一台 (クローズアップ増刊)



スパニッシュ・バロック様式が漂う エレベーター機械室塔屋



かご扉は手動の格子形蛇腹式で真鍮製



重厚感で落ち着いた雰囲気のあるエレベーターエントランスは、当時の雰囲気は今に伝えています



ブロンズ製のレトロな針式乗場インジケーター

とっておきの一台 (クローズアップ増刊)



かご内装飾（欄間及び飾り細工）は、今のエレベーターには無い重厚な雰囲気を持っています



乗場及びかご敷居も真鍮製
米国製である事を示す当時の社名が時代を語っています



かご内銘板も当時の雰囲気を今に伝えています



かご操作盤の手動式ハンドルは、今や貴重な存在となっています